運動負荷心電図
（トレッドミル・マスター試験）

◎何のためにするの？

運動を行い、心臓にわざと負担をかけることで、安静時の心電図記録ではとらえられない心臓病（虚血性心疾患など）の存在を見つけるために行います。

	《マスター負荷試験》	《トレッドミル運動負荷試験》
◎どんな検査？	検査用の２段の階段の上り下りをしてもらい、その前後で心電図を記録し、心電図に変化がないかをみます。	検査用のベルトコンベア（ルームランナー）の上で、歩行やジョギングを行い、運動前から運動中・運動後まで心電図と血圧を記録します。それによって、検査中、どんな症状が起こるか、あるいは心電図や血圧にどんな変化が起こるかをみます。
◎どれくらい運動するの？	心電計から出る音に合わせて、３分間(*)上り下りしてもらいます。回数は年齢・体重によって変わります。 ＊マスターシングルでは１分半、ダブルでは３分間、トリプルでは４分半行ないます。	年齢などから目標心拍数を割り出し、心拍数が目標に到達するまで、運動を続けます。
◎ひざが痛くてついていけるか心配…	心電図の記録および階段の上り下りの運動には、検査技師が立ち会います。 ひざや腰が痛くて、検査中に、これ以上続けられないようなときは、途中でやめることもできますのでお話ください。 また、運動中に胸の痛みを感じた際にもお伝え下さい。	検査は医師が立ち会っておこないます。患者さんのペースを見ながら、ベルトコンベアの動く速さを調整しますので、長時間歩くのが大変な方などは検査前にお話ください。また、運動中でも、ひざや腰の痛みで、これ以上続けられないようなときは、途中でやめることもできますのでお話ください。このほか、胸の痛み・苦しさなどを感じた場合にも、直ちにお伝えください。